

トライ★アングル

令和6年10月16日
八千代市立萱田南小学校
校長 越川多佳美
【校長室だよりNo.23】

学校教育目標：国際社会にはばたく南の子－夢と自信を育む－

理科の学習って楽しいね！！



先日、学校のいろいろなところで、保冷剤を持って時間を計っている子供たちがいました。聞いてみると、4年生が、理科の「雨水にゆくえ」の学習で、水蒸気が空気中に含まれているかを、保冷剤を使って調べている最中でした。教室、特別教室、廊下や階段、校庭などで比べながら調べていました。子供たちは、とても意欲的に、グループでもしっかりと役割分担をして、協力しながら取り組んでいました。

さて、令和4年度には、全国学力・学習状況調査で、「理科」の調査も行われていました(3年に1回行われます)。本校の当時の6

年生児童の質問紙調査では、理科への関心がやや低いという結果が出ていました。ただ、日ごろ子供たちに聞いてみると、好きな教科の一番は理科(低学年は生活科)という子も多いことがわかります。

私も小学1年生の時、夏休みに取り組んだアサガオの観察で、2学期に担任の先生からほめられ、それがきっかけで、理科が大好きになったのを覚えています。(私が子供のころは、1年生、2年生も理科を学習していました。)

でも、虫が嫌いという子や、実験や観察が好きではないから理科を苦手と思っている子もいると思います。

では、なぜ理科を学習するのでしょうか。文部科学省の小学校学習指導要領では、以下のように記されています。

自然に親しみ、理科の味方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象について問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を図り、観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察・実験などを行い、問題解決の力を養う。
- (3) 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

これを読んでみると、理科を学習する意味が見えてきます。

① 知的好奇心を養う

身の回りの不思議だと思える出来事や様子について、知りたい、調べてみたい、と思う興味関心をもち、「なぜそのようになるのか」という体験、経験をする。

② 仕組みを知る

例えば、物を持つ時、「みんなで持つとどうして楽になるの?」「どこを持つと楽になるの?」など感覚的には理解していることを、物事の仕組みを知ることにより考えが深まってきたり、新たに疑問をもったりすることができる。

また、理科の知識から「身を守る」ということもできます。天候の変化や地震などの災害についても、その知識があれば、どうしたらよいかを考えることができるようになり、どうしたら命を守ることができるかわかるようになります。詳しくは、中学校や高等学校で学習するでしょうが、小学生のときに学習したことが少しでも今後に生かすことができれば、と思います。

